

- ◆告知実施日及びその場所：2015年1月・長野県のスキー場にあるコテージハウスにて
- ◆当時の子供の年齢：4歳5ヵ月
- ◆家族構成：養父・養母・長男・盲導犬パピー
- ◆告知した人：養父・養母

<初めに>

私たちは東京ブロックの yutapa&yutama です。

私たち夫婦が第一回の面接説明会に参加させて頂いたのは2010年8月初めのことでした。その月末に、当時16歳の実母さんとご家族の緊急の駆け込みで、私たちのもとにご縁を結んでいただいた男の子がゆうちゃんです。

その男の子も5歳に成長し【真実告知】を済まし、そのことを皆様にお話させていただく日が訪れたことは不思議な気持ちがしています。

私たちが目指し行った笑顔いっぱいの【真実告知】についてお話させてください。

ドラマ『マザーズ』でマザーさん役の室井滋さんが悩み涙して語るシーンでもそうでしたが、【真実告知】を前にして悩まない養親さんなんていないと思います。

でもそこから逃げることは決してできないのですね。

子育てに嘘があってはなりませんもの。

【真実告知】には正解なんてありません。

なぜならば、告知される子どもそれぞれが皆違いますから。

男の子と女の子でも違うことでしょう。

養親にとってももちろん大きな事柄でもありますけれど、あくまでも子どもを第一に！

子ども一人ひとりの成長を見極め、最良と思える時を見計らい、

養親夫婦2人一緒になって取り組んで欲しいと思っています。

私たち夫婦が目指した笑顔いっぱいの【真実告知】とは

「産んであげられなくてごめんね。」ではなく、

「産んでくれたお母さんにありがとうって言おう！」ということです。

特別養子縁組の子ども達にとって【真実告知】は笑顔に彩られた幸福なものでなければなりません。

シンプルに受け止めて明るく行う方が良い結果となると考えました。

不正解があるとなれば、【**真実告知**】を行わないことです。

私の友人でAID（非配偶者間人工授精）で産まれた女性がいます。

彼女は、大学生の時に父親が遺伝性疾患の病気を患ったことで、

自分の身体を調べるうちに出生の真実を知ったそうです。

その時に彼女が感じた

『自分は親が隠さなければならない医療行為で産まれたのか』という悲しい思い。

それを私たちは重く受け止めました。

全ての人間には「自分とは何か？」を知る権利があります。

例え出生の状況がどれほど苛酷であったとしても、

その表現を十分に配慮して考え伝えることも養親に必要な資質と義務だと考えてます。

また、子どもが2人以上いるファミリーも増えてきました。

その場合ほとんどは第一子に【**真実告知**】を行う前に第二子がくるので、

第一子の養子の子どもは、ある日突然弟や妹がマザーさんに連れられてきたという

強烈な記憶が残ります。

また第二子、第三子は、既に告知を済ませた兄や姉からも生活の中で

【**真実告知**】に触れる多くの機会を得るので、自然に兄弟姉妹関係の中から学んでいくことでしょう。

御夫婦のどちらかと子どもの肌や瞳の色が違っていた場合も、

異なるアプローチとなることでしょう。

<【真実告知】のタイミング>

小学校に上がるまでに済ませた方が良いでしょう、
それぞれの家庭の事情や子供の成長により、それこそ千差万別。
これから告知される皆さんには、私たちのケースはあくまでご参考程度に、
『子ども本位』ということを失うことなく、じっくりと取り組んでください。

言葉も理解できない赤ちゃんから真実告知をしているファミリーもいるようですが、
私たちはその選択はしませんでした。

また、家庭外の環境の変化などの理由で急遽告知を迫られるといったことも
ないようにしていました。

私たち夫婦が一番不安に感じていたのは、

【真実告知】直後のゆうちゃんが精神的に不安定になったり笑顔が失われたり
してしまうことでした。

全ての養親さん達が心配するのは、まさにその一点でしょう。

会のホームページを見ますと、3歳くらいから開始することを薦められていますが
私たちの場合、3歳頃のゆうちゃんにはまだちょっと早いかなど思っていました。
言葉で上手く伝えていくために、まずは愛情たっぷりに笑顔いっぱい育て
決して不安定になったり悲しませるようなことが無いように気をつけます。

そして、楽しく暮らして**自己肯定感**を育み、

その日が来るまで子どもの成長を見守り続けることが大切です。

大人でも認めてもらえたり必要とされたら安心し自分を見失うことはありません。

不測の事態が起きた時に**自己肯定感**が根付いていれば

自信をもって進めることができます。

3歳となり、幼稚園に入園したゆうちゃんの日々の様子を注意深く見守っていました。
そうしていると、お友達のお母さんのお腹が大きくなってきて、
しばらくすると赤ちゃんと一緒に通園してくるといった機会が増えてきました。
集団生活の中で、子ども心に赤ちゃんはお母さんのお腹の中から生まれてくることを自
然に学んできましたね。

笑顔いっぱいの【真実告知】にあたり、

養子の子も自身が3つの項目の自然な理解が必要と考えました。

①自分の育ての両親、そしておじいちゃんおばあちゃんを認知していること。

②幼稚園などで、お友達にも同じく両親がいることを理解できていること。

③赤ちゃんはお母さんのお腹が大きくなって、そこから生まれてくること。

こうした生命のつながりを理解していることが前提となります。

そして3つの人間的成長の見極めが不可欠と思います。

①自己肯定感が十分に発達している。

②他者に対して慈しみの心がある。

(ゆうちゃんの場合、盲導犬パピーのお散歩やお世話を一生懸命しているなど。)

③幼稚園の生活も安定していて心が満たされている。

この内容をしっかりと見極めそのレベルに達していないと、

いくら言葉で伝えても理解することはできません。

私たちは理解して欲しいという親の気持ちで告知するのではなく、

子どもの理解度をよくよく観察し養親夫婦で議論を重ねながら慎重に進めました。

2014年秋の東日本すずらん会で先輩ファミリーの四つ葉のクローバーさんとお話させて頂いたとき、トーマスくんと【真実告知】のことを聞かせてもらいました。

それは

◎親子水入らずで

◎素晴らしい景色の場所で

◎吉日や告知のタイミングを選んで

【真実告知】をするというものでした。

伝える側が十分にリラックスできていて不安や緊張の少ない状態で子どもに向き合うことが大切だと気づかせていただきました。

ものすごく共感し、私たちも同じようにしようと考えました！

もうひとつ大きな柱として私たちが意識したのは、
お父さんお母さんが一緒になって行う【真実告知】でした。
お母さんだけの【真実告知】が多いですが、子育てはお母さんだけで行うものではない
ことと【真実告知】は全く同じことだと考えています。
【真実告知】の瞬間の子どもの様子を注意深く見守ることで、
お父さんならではの気づきも必ずあります。

また将来、親子関係がギグシャクした時に、
【真実告知】をお母さん任せにするお父さんに限って、
「お母さんの育て方が悪い」と言ったり、
逆にお母さんの方は
「お父さんは子育ての大事な場面にいつも立ち会ってくれなかった」と
恨み節を言ったりするものです。

私達養親世代は自分たちの父親が外でがむしゃらに働き、子育ては母親まかせといった
環境で大きくなった人たちが多くから、それで構わないと考えがちですが、
今は時代が全く違います。

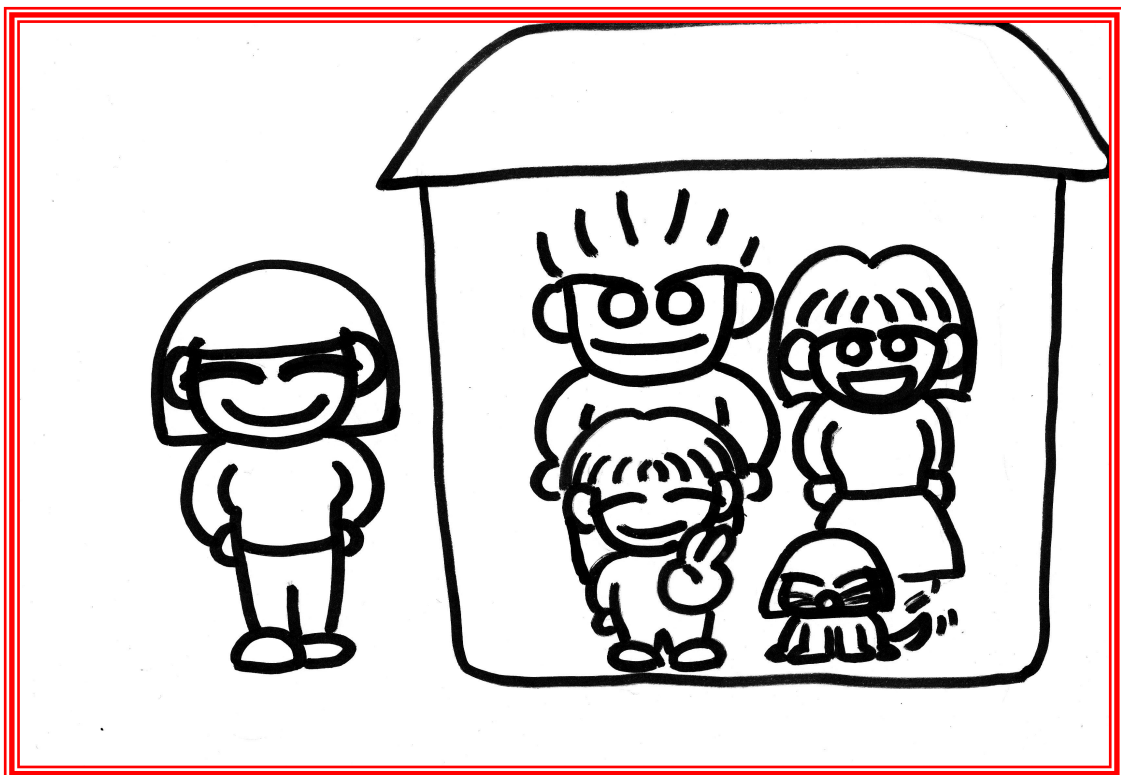
お父さんの海外勤務や単身赴任などで家族三人で生活していないなど、
家庭によって様々なご事情があると思いますが、
子どもを第一に考え、お父さんと一緒に過ごしているタイミングを努力して作り出して
【真実告知】を行うことをおすすめします。
【真実告知】後の取り組み方を夫婦で議論できることが、
後々まで子育てと円満な夫婦関係に計り知れない大きな『意味』を持ちます。

< 【真実告知】 の場所作り >

4歳5ヵ月となった年少の幼稚園の時期でした。
元旦明けの成人の日の連休を利用して長野県のスキー場に行ってきました。
当日は素晴らしい天気にも恵まれました！
まるで力強いエールを頂いたかのよう。
愛犬と一緒に家族の楽しい時間、美しい白銀世界の中で過ごし、
スキーやソリを心から楽しみました。

< 【真実告知】 の状況 >

スキーが済んでお風呂に入って美味しい夕食を食べる前に、
ゆうちゃんを私たち夫婦の真ん中に座らせて、スケッチブックにわかりやすい『絵』を
描きながら
夫婦2人で告知しました。
真っ白な紙にこんな感じ。



①まずゆうちゃんを描き

「これはゆうちゃんだよ～♪」って明るく言いました。

②次に愛犬である盲導犬パピーを描き

「これはワンちゃん！今日は雪で思いっきり楽しんでたね！」

③そして私たち夫婦の絵を描きます。

「これはパパとママだよ！似ているかな～♪」

④「一緒に楽しく住んでいるよね！」と明るく伝えます！

「うん！」とゆうちゃんはとっても嬉しそうでした。

⑤そして家のように屋根と四角の箱で囲んで外に笑っている女の人を描きます！

いよいよ笑顔いっぱい【真実告知】の瞬間です！

「かわいい女の人だね。この人がだれだかわかる？」

「この人はゆうちゃんを産んでくれたお母さんなんだよ。。」

「赤ちゃんってお母さんから産まれてくるのはわかるよね？」

「ゆうちゃんはママからではなくて、このお母さんから産まれてきたんだよ。」

「ゆうちゃんを産んでくれたお母さんはその時はまだとっても若くて夢に向かって勉強中で、赤ちゃんだったゆうちゃんを育てることがどうしても出来なかったんだ。」

「パパとママは子どもが大好きで子どもが欲しかったんだけど、子どもがいなかったんだ。それでマザーさんをお願いして、かわいい赤ちゃんがいたら育てさせてください！ってお願いしたんだよ！」

「そうしたら、かわいい男の子が生まれたよ！ってマザーさんから連絡をもらってゆうちゃんをパパとママの子どもとして育てさせてもらうことになったの。嬉しかったなあ～♪」

「ゆうちゃんはママから生まれた子どもではないけれど、世界で一番の大切な子ども。これからもずっと一緒だよ！」

と笑顔いっぱいで伝えました。

ゆうちゃんは目を見開いた感じでかなり驚いた表情を見せてしばらく描いた絵を見ていましたが、私たちが2人で今までどおり変わらず家族として楽しく生活していくことを強調したためか、特に動じることなく「わかった！」とのことでした。その時はその話はもういいという感じでした。その後、美味しい料理を家族三人食べてまったりと過ごしました。

その日の寝る前に、ゆうちゃんは、同じスケッチブックにとっても生き活きと嬉しそうに一枚の絵を描いてくれました。

それがこの絵です！



誰なのかと確認したら、赤ちゃんのゆうちゃんと私たち夫婦とダイドと実母さんとのこと。

絵を書ってくれたことにも驚きましたが私たちが描いたような現在のゆうちゃんではなく

赤ちゃんのゆうちゃんを描いてくれたことに本当に驚かされました。

産んでくれたママが他ににいるという事実を自分の中で受け止めてくれたような印象を受けました。

あまりに嬉しかったので、思わずマザーさんに写メールしてしまいました！

<【真実告知】を終えて>

【真実告知】を済ましてから1年半が過ぎました。

ですのでその後のゆうちゃんの様子を皆さんにご報告できますね。

結論から申しますと、【真実告知】前と子育てに関して大きな違いはありません。

それでも【真実告知】の後、しばらくは

「ボクを産んでくれたお母さんは他にいるんだよね？」とか

「ママと、産んでくれたお母さんは違うんだよね？」などと、

確認するように何回か尋ねられました。

引き続きゆうちゃんの心の成長に向き合う笑顔いっぱいの日々です。

振り返ってみると、告知はもう少し後でも良かったかななんて思ったりしました。

私たちは正月明けの「成人の日」の連休を利用した慌ただしい【真実告知】でしたけれど

幼稚園年中さんの夏休みとかの方が、その後の数日の間、家族三人だけでもっとゆっくりと心の動きに向き合えます。

やっぱりちょっと焦っていたかも知れません。

また会の交流会や同期会、このようなシンポジウムに行く度に、

「ここにいる家族の人たちは私たちと同じような家族なんだよ～♪」

と伝えていきます。まだまだ繰り返しの【真実告知】は継続中です。

まだゆうちゃんの口から実親さんに会いたいという言葉はでてきてません。

そんな希望を迎えたら、

またマザーさんに相談して、

同じように試行錯誤しながら最良と思う選択をしていきたいと思っています。

<おまけ>

今年で六冊目となるアルバムに実母さんへのお手紙をゆうちゃんが書いてくれましたのでご披露します！

ちなみに私たちから手紙を書きなさいとか、
こう書いてなどということは決してしていません。

自らの意思で書いてくれました。

ゆうちゃんの中で産んでくれたお母さんの存在が大きくなってきていますね♪



＜これから【真実告知】をする御夫婦へ＞

【真実告知】で一番大切なことは、血が繋がっていなくても強い絆で結ばれていること。
そして、お互いが強い信頼関係で結ばれていることを確かめることです。
どうしても重いものと捉えがちですが明るく前向きなものと捉えてほしいです。

自分には別に産んでくれたお母さんが存在することを知ること、

- ◎この世に産んでくれたお母さんへの感謝。
- ◎私たち夫婦と引き合わせていただいたマザーさんへの感謝
- ◎大切に育ててもらったことへの感謝

という**3つの感謝**を初めて持つことができます。

このことがゆうちゃんの健やかな心の成長にこれからも大きく影響し続けることでしょう。

【真実告知】をして良かったと心から思っております。

どうか皆様それぞれの子ども本位の**笑顔いっぱい**の【真実告知】をなされてくださいませ。

本日は誠にありがとうございました。